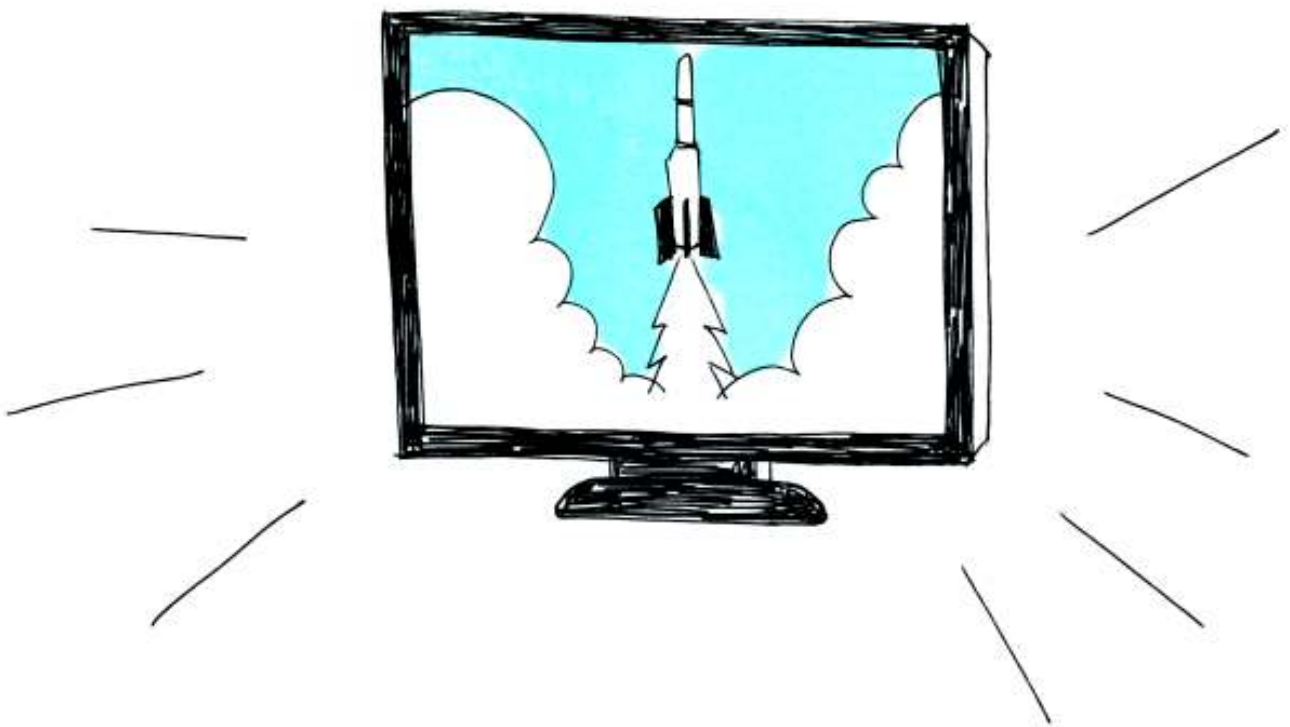


あなたはなにが好きですか。

ぼくはロケットが好きです。



小さな町工場で、

ぼくはロケットを作っています。

宇宙に飛び出す、本物のロケットです。



この世には、

よっぽど頭が良くないと、

よっぽどお金を持ってないと、

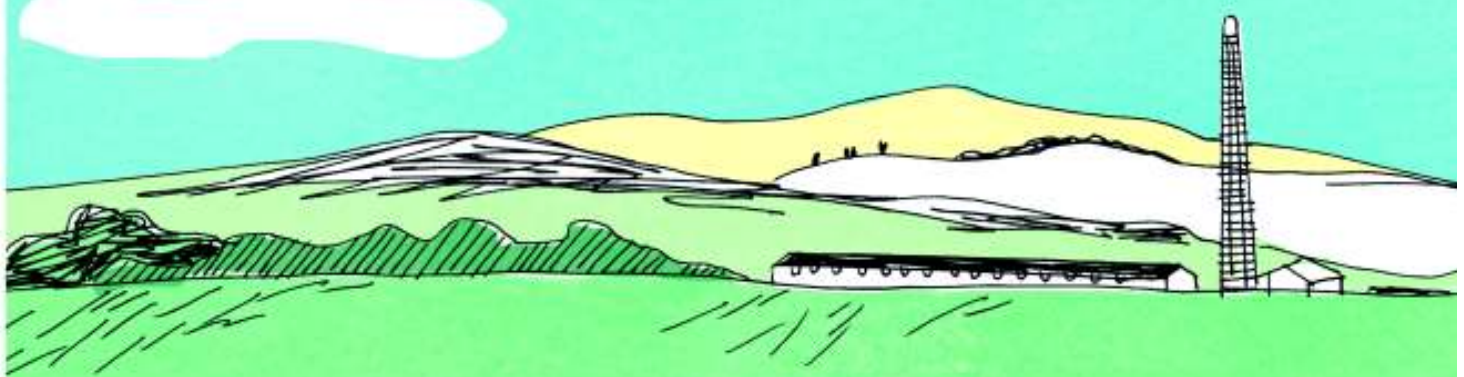
よっぽど才能とか経験がないと、

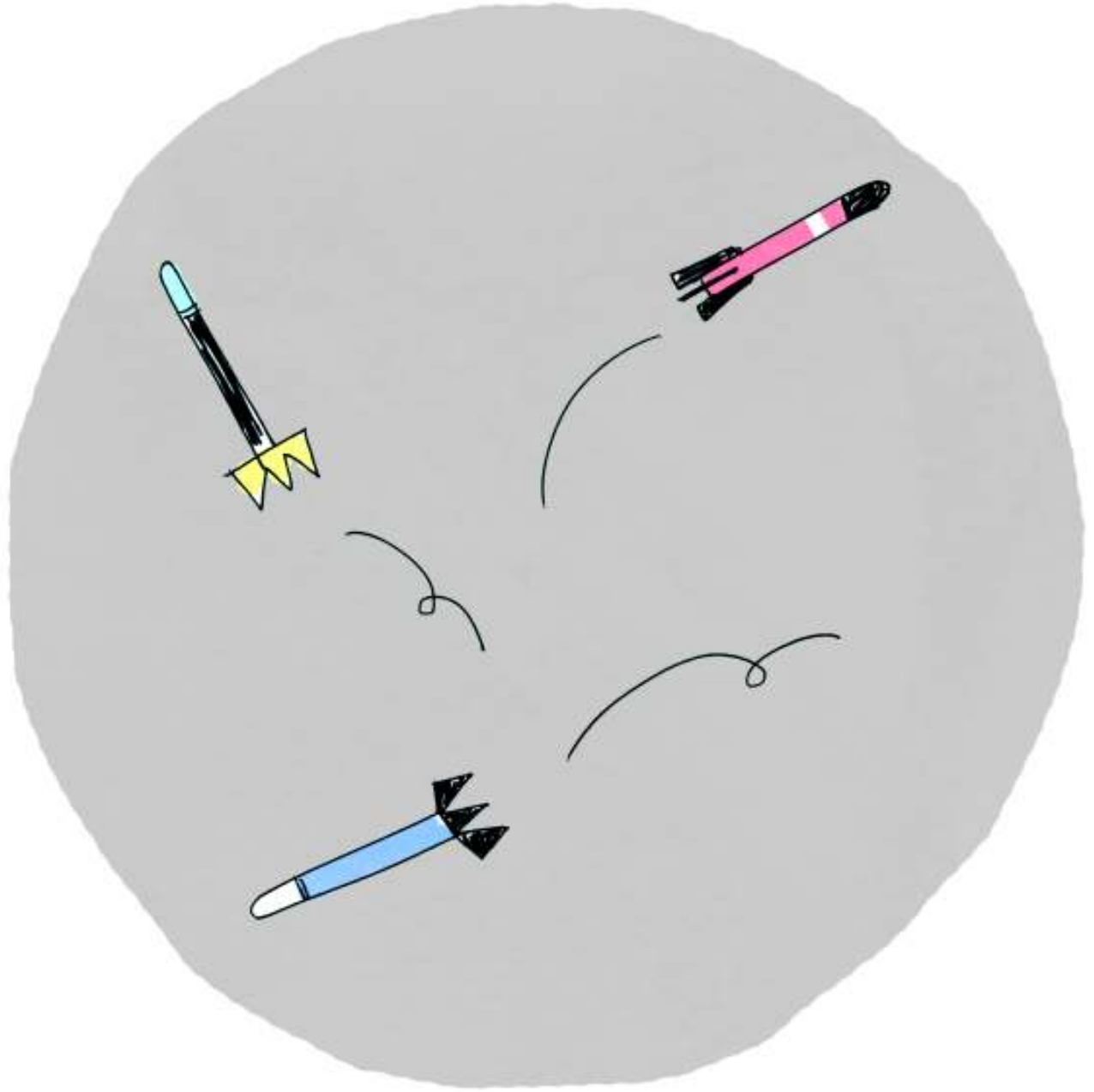
「どうせ無理だ」

といわれることがたくさんあります。



でも、あんなにちっぽけな工場の人だって、
ロケットを飛ばせるくらいだから
もしかしたら自分にもなにかできるんじゃないか。
そんな風を感じてもらえたらいいなと思って、
ぼくはロケットを作っています。





ぼくの工場には、よく子どもたちが遊びにきます。

彼らもたいていロケットが好きです。

だから一緒にロケットを作ってもらいます。

ただ、作り方は教えません。

わからなければ、自分で調べればいいからね。

まわりのやり方を見て、真似をすればいいからね。

自分がわかったことは、みんなに教えてあげてね。

そうすれば“わからないこと”なんて、あっという間になくなるから。

そう伝えると、みんなちゃんと自分たちの手でロケットを完成させます。



“自分のロケット”を完成させると、みんな我先にと飛ばしたがりです。でも、ためしにぼくがロケットを飛ばしてみせると、

「やっぱり飛ばしたくない」といいはじめます。

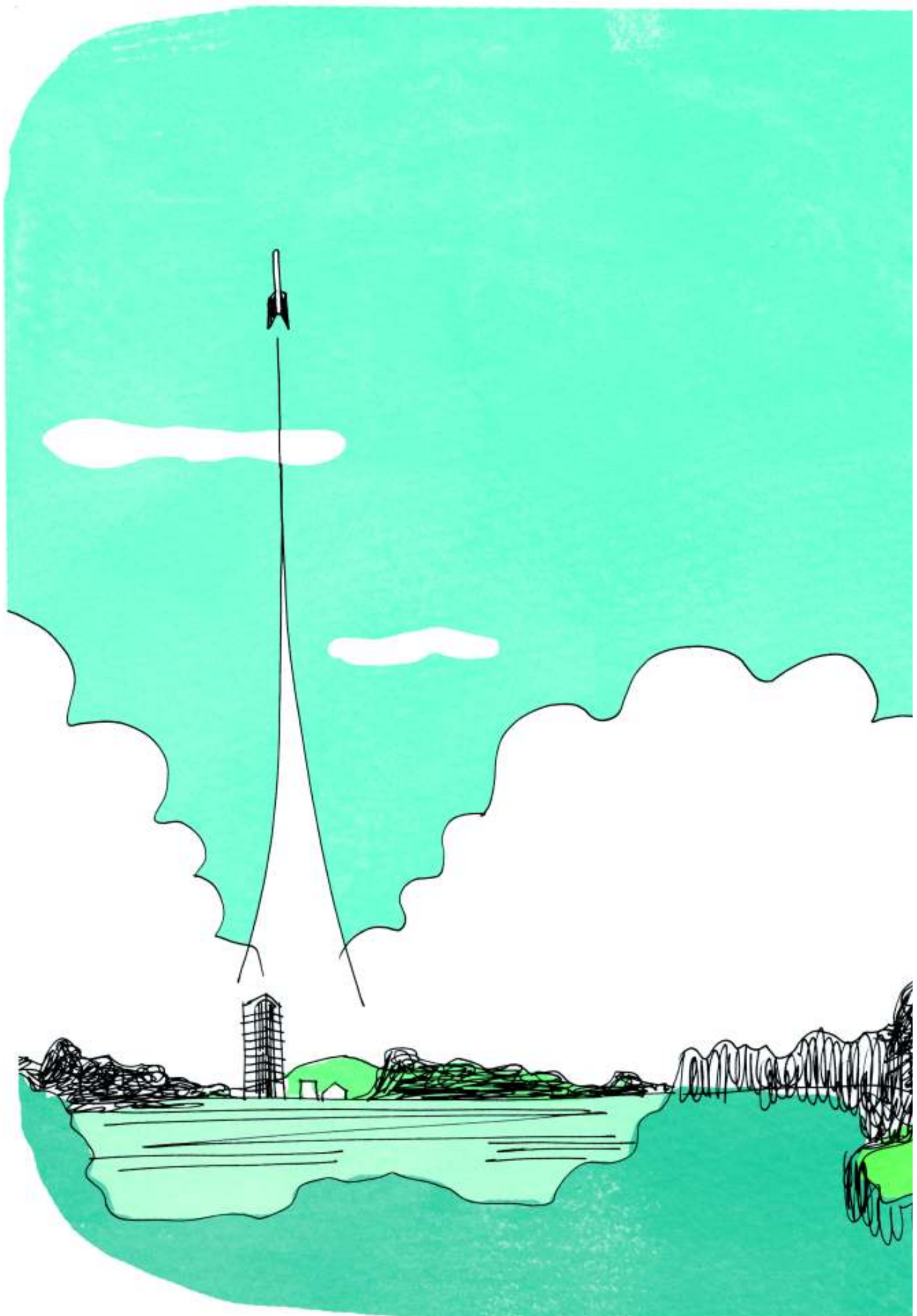
「あんなに飛ぶとは思わなかった」といいます。

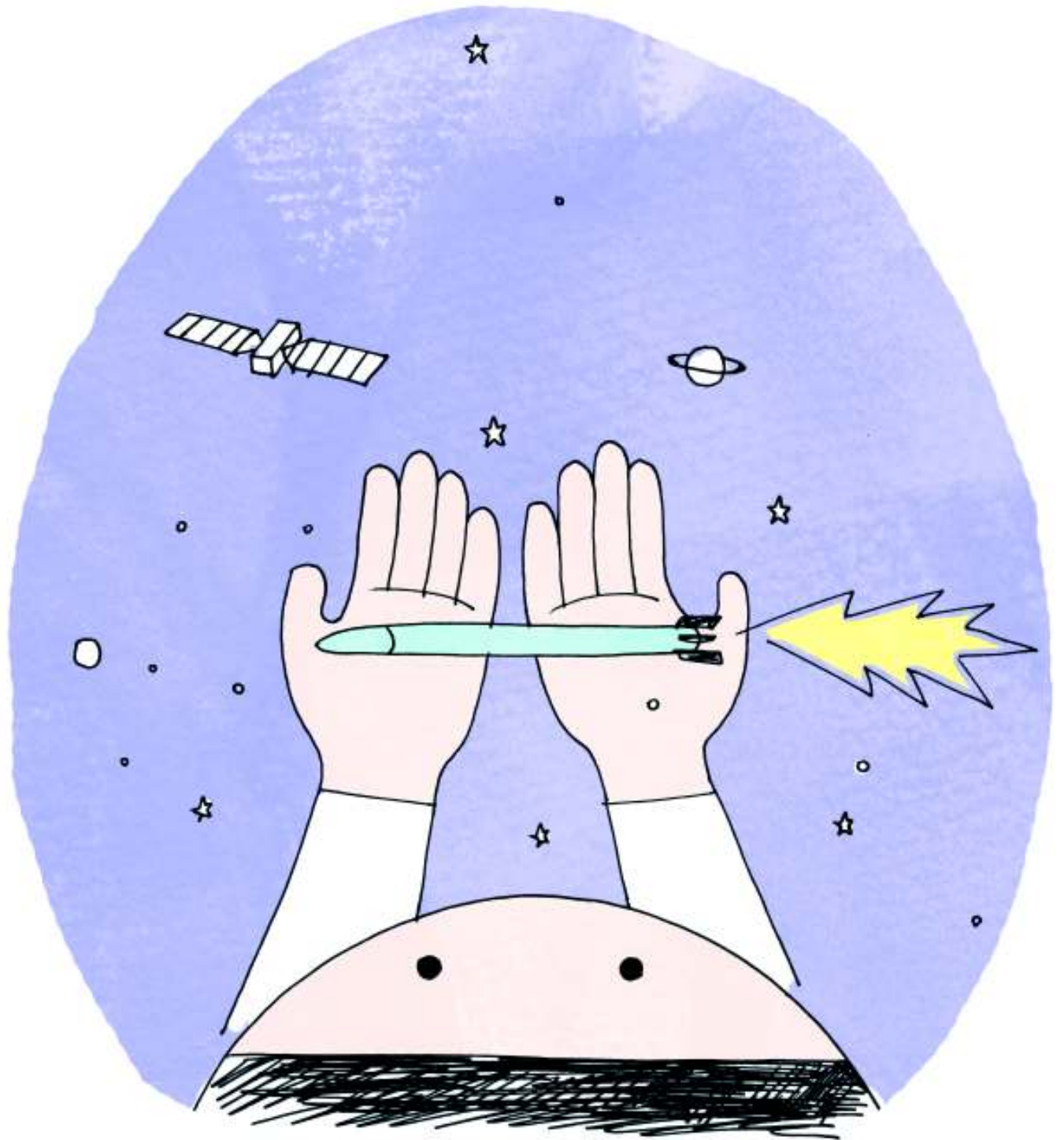
発射ボタンを押せなくなってしまう子もいます。

“どうせ自分のやつはダメだ”って、ためらうのです。

でも、ロケットは飛ぶんです。







そうしたら変化が起こります。


みんな、やさしくなれるんです。

「作れない」と思っていたロケットを作れたから、

「飛ぶわけがない」と思っていたロケットを飛ばせたから、

小さな自信がわいたのです。





この小さな自信が、
これからの日本にどうしても必要なのです。

空 想 教 室

みなさん、こんにちは。

今日はみなさんに会えることをとても楽しみにしていました。

今からみなさんの貴重な時間を借りて、お話を聴いてもらいます。

このお話は、ぼくの仲間を探すための話です。

ぼくが「仲間が見つかったらいいな」と思っている話だから、全然かたくるしい話じゃないです。

紙芝居を見るみたいに気持ちを楽しにして、

話を聴いてくれたらいいなと思います。

今からみなさんにお伝えしたいことは、とっても簡単なことです。

それは

「思うは招く」

ということですよ。

これは中学生のときにぼくの母さんが教えてくれた言葉で、

「思ったら、そうなるよ」という意味です。

夢があったらなんでもできるのです。

本当です。

子どもだけではなく、もちろん大人もです。

だからみなさんには、ぜひ素敵な夢をたくさん持ってほしいなっています。

LESSON OF IMAGINATION

CONTENTS



Lesson1

思い描く。

01

もう一度、「自分の夢ってなんだろう?」と考える。

028

02

「すでにできること」ではなく
「まだできないこと」をはじめてみる。

036

03

はじめから人にまかせず、まずは自分で試してみる。

042

04

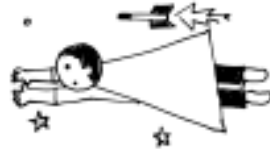
今の時代の「ラッキー」から、作り出せるものを考える。

049

05

なくなるお金ではなく、なくならない知識をためる。

055



Lesson2

思い込む。

06

プレッシャーを感じる役割を、すすんで引き受けてみる。

066

07

他の人がやっていないことを、自分からためしてみる。

071

08

うまくいかなかったとき、「だったらこうしたら？」を考える。

078

09

「これまで」を見ないで、「これから」のことを決める。

084

10

いたずら心を出して、余計なことをやってみる。

090



Lesson 3

思いやる。

11

素直さや真面目さより、「自分の考え」を優先する。

100

12

「気が合う人」よりも、「経験がある人」に相談する。

105

13

何冊も伝記を読んで、ヒーローたちを真似る。

111

14

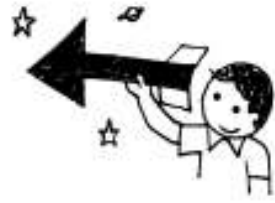
「自分と違うタイプの人」に、自分から心を開いてみる。

117

15

定期的に「いまからやりたいこと」を考える。

123



Lesson4

思い切る。

16 「楽そうな方」ではなく「楽しそうな方」を選ぶ。

130

17 いやなことを見つけたら、なぜいやなのかを考える。

136

18 目の前の仕事だけではなく、次の仕事も同時にはじめる。

144

19 「ちゃんとしている」ふりをせず、「自分の弱み」を見せる。

150

20 好きなことは「やめろ」と言われても続ける。

158

21 「どうせ無理」と戦う。

168



Final
Lesson



Lesson 5

おわりに。

211

24

否定されても、怒らず聞き流す。

205

23

中途半端になってもいいから、好きなことにはいくつも手を出す。

197

22

「なになりにりたいか」ではなく「なにをやりたいか」を考える。

188

思い続ける。



Lesson of imagination

Lesson1

思い描く。

Imagine



Lesson of imagination

01

もう一度、

「自分の夢ってなんだろう？」

と考える。

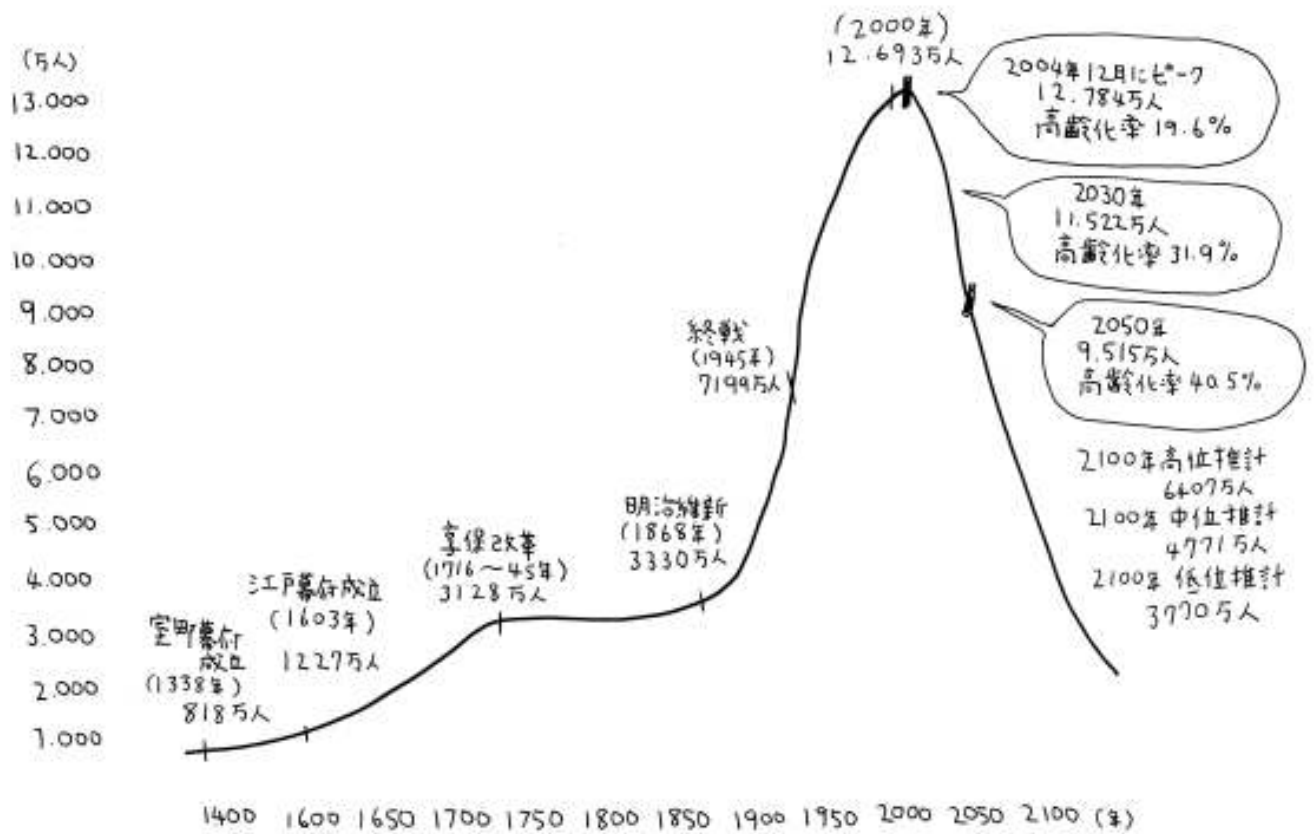
「あなたの夢はなんでしょうか？」

ありきたりな質問だと思ったでしょうか。

今さら夢なんて、と恥ずかしく感じた人もいるでしょうか。

でもこれからは、夢がない人は生きていけなくなるかもしれない。なぜなら今、とても大変なことが起こっているからです。

目の前に大きな壁が迫っているのです。



これは日本の人口のグラフです。日本の人口は今までずっと増え続けてきました。とくに明治維新を境に、その後とんでもない勢いで増えています。

ところが2004年の12月から、これまたとんでもない勢いで減っています。

つまりぼくたちは人口のピークをむかえ、その後、急に減りはじめた斜面をたった今、下っているわけです。過去に、この下り坂を経験した日本人はいません。だから人口のピークより後、人口が減り続ける社会では、なにが起こるか誰にも予測できません。

少なくとも、上の世代がいうところの「若い頃は」「昔は」「普通は」という常識は一切通用しないでしょう。まったく新しい、はじめての時代をぼくたちは生きているのです。

出典) 総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成

人口が急に減った国では大変なことが起こります。

たとえば「お店の売上」は落ち続けます。「お店の売上」が、お客さんの数と比例するのは当たり前のことですからね。

お店だけではありません。まともに考えたら「経済がプラス成長する」とか「給料が毎年増える」ということは難しそうです。

今までの日本はそうではありませんでした。〃すなお〃で〃まじめ〃に仕事をがんばっていたら、毎年、給料がちよつとずつ増えました。

多くの人は、それは当然のことだと思っていたでしょう。

でもそれはたまたま、「人口が増え続けていたから」なのかもしれません。

これからはどんどん人口が減っていきます。

だとすれば、会社に入ってすぐの初任給が最高で、あとは毎年給料が下がっていくということになります。そんなことがもう現実に起こりはじめています。

では、お先は真っ暗なんですか？

いいえ。そのかわり、こんな時代だからこそ「夢が大切だ」といわれます。

「夢」というのはよく聞く言葉です。よく聞く言葉だからこそ、大人は軽く考えてし

まいがちです。

でも夢は必要です。

もう一度ききます。

あなたの夢はなんでしょう？　そもそも「夢」って一体なんなのでしょう？
これからみなさんと一緒に考えていきたいと思います。

ぼくははじめに「これから先の日本は、給料が毎年下がるような国になるかも」と縁起でもない話をしました。

でも実は全然大丈夫なんです。

ちよつと難しい言葉になりますが、日本の「単位労働時間あたりのGDP」は、フランスの半分しかないからです。

どういうことだかおわかりになりますか？

同じ時間働いたとしても、日本人が生み出すものは、フランス人の半分しかないという事です。

日本人はどれだけ効率の悪い仕事をさせられているのでしょうか。

つまり、まだいくらでも改善できるということだ。

日本は2倍の経済成長ができるかもしれないし、それはもしかしたら世界を救うチカラになるかもしれません。

そのためには間違いなく、みなさん一人ひとりの能力の向上が必要です。

そして能力の向上のためには、夢が必要です。

だからみなさんには、素敵な夢をたくさん持ってほしいのです。

夢について、もうみなさんは知っています。

“あきらめなければ、夢は叶う”

すばらしい言葉です。本当のことだと思います。

でもその言葉の裏にはとんでもない副作用がありました。

それは「夢が叶わなかったのは、あきらめた自分が悪いんだろう」ということです。あきらめた自分のことを責めている。そんな人を、ぼくはたくさん知っています。

でも自分を責める必要なんてありません。なぜなら日本が変だからです。

「夢」という言葉について調べてみたところ、アメリカの辞書には〈夢とは……強く

願い、努力すれば実現できるもの」と書かれていました。

ところが、日本の辞書には〈夢とは……はかないもの。叶わないもの〉と書かれていました。

実際、日本人には「あきらめた」んじゃないくて、「あきらめさせられた」人の方が圧倒的に多いのです。

〈夢とは……はかないもの。叶わないもの〉だと思い込んでいる、いろんな人たちによって、です。

自分を責める必要なんてまったくありません。

今、これから「自分の夢ってなんだろう？」と考えてほしいのです。

もしかしたら誰かに売りつけられた夢を、自分の夢だと思い込んでいるだけかもしれません。

自分の本当の夢を、一生懸命考えてほしいのです。



夢が「いらなかった」時代は終わろうとしている。

